

島嶼学概論 I レポート

農学研究科 果樹園芸学研究室 3416810170 古澤典子

「港が大きな温泉みたいな鉄の色だ。」これが7月2日から1泊2日で訪れた鹿児島県三島村の硫黄島の第一印象である。事前にフェリーで講義を受け、温泉の成分で港が茶色になると聞いてはいたものの、やはり直接見ると驚いた。そして港ではジャンベの演奏による歓迎。自動車が鹿児島ナンバーなのが不思議に感じるほど、独特の雰囲気があった。そんな初めての景色から始まった硫黄島での2日間は、最後まで初めての体験ばかりの滞在となった。



三島村は、鹿児島県薩摩半島の最南端・長崎鼻から南南西約40kmに位置する、竹島・硫黄島・黒島の三島からなる人口378人ほどの集合村である。鬼界カルデラの外輪の一部であり、2015年9月に日本ジオパークに認定された自然豊かな島である。硫黄島は3つの島の真ん中に位置している。島ではいたるところから温泉が湧き、その成分によって島と海との境目では様々な色が混ざり合っており、珍しい景観を生み出していた。

1日目はまず鬼界カルデラや地層が観察できる場所を回り、7300年前の噴火のすごさを実感した。しかしゴミ捨て場に行った際、何年も前から粗大ゴミなどがそのまま放棄されているという島の難しい現実があることも知った。だが問題の根本的な部分はどこの街でも同じことだとわかり、「文明の縮図がよく見えるのが島」と大岩根さんがおっしゃったのがとても胸に響き、ゴミは持ち帰ろうと思った。そして海のすぐそばの東温泉へ行き、夕方からはジャンベを叩いた。初めて見る楽器だったが演奏するのはおもしろく、全員で演奏すると音が体に響くのでジャンベと一体化したように感じ、楽しかった。夜に空を見上げるとたくさんの星が瞬いており、流れ星も見ることができた。2日目は平家から逃げのびた安徳天皇ゆかりの地や熊野神社、博物館などを徒歩で回り、自然だけでなく歴史の面からもとても興味深い島だった。

滞在した2日間で硫黄島の素晴らしいところをたくさん知ったが、一方で課題も多くあることがわかった。大きな問題の1つが人口減少である。島唯一の三島小中学校は、常に廃校の危機にあるようだ。島特有の不便さも要因かもしれないが、やはりいちばんは仕事が少ないことだと思う。昭和の頃は硫黄岳で硫黄や珪石が採取されていたそうだが、今は行われておらず、現在では牛の繁殖と椿園で採れる椿油やその加工品、そして大名筍などが主な産業であった。農学を学んでいる私には、島に田がない上に畑も家庭菜園くらいの規模で少な

いことが驚きだった。島では自給自足がある程度は成り立っていると思っていたからだ。今ほどフェリーが頻繁に来なかった昔は、芋などを栽培しており、ある程度は自給自足だったそうだが、火山ガスや強い酸性雨が降る環境下での農業は、特に葉菜類が栽培できないと知った。仕方がない面はあるのかもしれないが、施設や適応できる野菜の研究などを行い、もう少し「食」に力を入れるべきではないかと思う。なぜなら、私が旅行先、特に都会でない場所で期待するのは「自然」「地元の人との交流」そして「食」の3つであるからだ。硫黄島では自然と島民の方々は素晴らしかったが、食のことはあまり印象に残らなかった。三島牛や大名筍などの島の名産を鹿児島市や他県に広めることは大切だが、「島でしか味わえない料理」があると一層魅力的な島になるのではないかと思う。硫黄島ではそれを食べる場所と名産以外の食材の生産が少なそうだったのがもったいないと思った。

大岩根さんは三島村で「遊ぶ」「学ぶ」「稼ぐ」「しくみを作る」の4つの柱をもとに、様々な取り組みを精力的に行っておられた。そしてこの三島村の自然を生かした循環を「三島村だけではなく、ひいては過疎地や離島でも実践できる地方創生のモデルになる」と捉えておられることに感銘を受けた。実際に島に行った私たちが情報の発信源となることで島の活性化に貢献したいと思った。だが、まだ三島村の素晴らしさは多くの人に知られているとは言い難い。私自身、この講義を取らなければ知らないままだったと思うので、情宣活動は特に重要だと感じた。しかし、ジオパークに認定されたことを伝えるだけでは不十分である。ただ島に来て観光するだけではわからないことがたくさんあるからだ。私たちが大岩根さんにしてもらったように、島のことを教えてもらい、島を体験することによって真の意味でジオパークが活かせるのではないかと感じた。三島村は歴史的・地学的な面からだけでなく、ジャンベや温泉など多角的に楽しめる場所であるため、知名度が上がれば観光や学習目的の人がもっと増えるはずだ。地学にあまり興味のなかった私でも、火山活動などの背景を知れば知るほどおもしろく感じた。今回のような学びが、特に子供たちの教育につながれば、将来的にはUターンやIターンで三島村の農家になったり、観光ガイドをしたりする人が増え、持続的な活動が行えるのではないだろうか。これからの三島村を発展させていくためにはこのような情宣の効果によって定住者が増え、活性化が行われるのが理想だと思う。

今回の硫黄島の滞在は2日と短い間でしたが、多くの貴重な体験ができ、とても充実した時間になりました。また、離島だけではなく、過疎地や生活の質について考える大変良い機会になりました。これをきっかけに色々な島に行ってみたいです。最後になりましたが、先生方を始め今回の講義でお世話になった方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。